成人看護学看護過程論	２年・後期	１単位	准教授　片貝智恵 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210652

１．授業のねらい・概要

本科目は,健康障害および機能障害をもつ成人に対する看護の実践に必要なアセスメント能力と，看護過程展開の各段階において必要な援助技術を習得する。

２．学修の到達目標

１．事例を通して，健康障害および機能障害をもつ成人患者の看護展開方法を理解できる。
２．看護過程展開に必要な援助技術を習得できる。
３．主な成人期慢性疾患と急性期疾患の病態・健康障害の特徴を，日常生活に及ぼす影響を含めて理解する。

３．授業の進め方

講義，看護過程展開演習

４．授業計画（演習）

１．本科目の学習内容と方法 看護過程の理解（片貝智恵） ２．看護過程の理解（片貝） ３.呼吸機能障害のある患者の看護(片貝) ４.呼吸機能障害のある患者の看護(片貝) ５．事例を用いた看護過程の展開：呼吸機能障害患者（片貝・助手） ６．事例を用いた看護過程の展開：呼吸機能障害患者（片貝・助手） ７．事例を用いた看護過程の展開：呼吸機能障害患者（片貝・助手）	８.事例を用いた看護過程の展開:呼吸機能障害患者(片貝・助手) ９．代謝機能障害のある患者の看護（神田千春） 10．代謝機能障害のある患者の看護（神田） 11.事例を用いた看護過程の展開:呼吸機能障害患者(片貝・助手) 12.事例を用いた看護過程の展開:呼吸機能障害患者(片貝・助手) 13．代謝機能障害・感覚機能障害のある患者の看護（神田） 14．感覚機能障害のある患者の看護（神田） 15．感覚機能障害・口腔に障害のある患者の看護（神田）

５．成績評価の方法・基準

評価は，定期試験（50%），平常点・課題レポート（50%）を基準として総合的に評価する。

６．テキスト・参考文献

テキスト：１）山下香枝子他編著：系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[2]呼吸器[6]内分泌・代謝[13]眼[14]耳鼻咽喉［15］歯・口腔，医学書院.
２）任和子他編著(2015)：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド-ヘンダーソン・ゴードン・NANDA の枠組みによる，照林社.
３）リンダ J.カルペニート=モイエ著，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，医学書院.

参考文献：随時紹介する

７．準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲について，1 時間の予習と 1 時間の復習を必要とする。人体の構造と機能・疾病論・看護過程論等，既存の知識を必要とする。

８．受講上の留意事項

慢性期成人看護学実習の先修科目である。

９．課題に対するフィードバックの方法

試験終了後，口頭または掲示で解答や解説を周知する。

10．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11．実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。